

【児童への話】

3月も2週目となり、今年度の学校での生活は残り3週間、14日間程となりました。卒業関係の行事としては、先週1日の「6年生を送る会」に続き、今週8日水曜日に「謝恩会」、そして24日金曜日には『卒業式』が予定されています。そう、もうすぐ73人の優しい6年生は、この番町小学校を卒業し、4月からは中学生になるんです。1年生は、6年生にたくさんお世話してもらいましたね。2～5年生も、運動会や音楽会などの行事、クラブや委員会活動で、とても頼りになる存在だったと思います。でも、その6年生の、お別れのときが近付いています。

今日は校長先生が、いつも心に刻んでいる大切な言葉をみなさんに教えます。それは、「さよならだけが人生だ」という言葉です。

世界は広く、人間には寿命がありますので、どんなに好きで大切な人でも、いつかはお別れをするときが必ずきます。人間の一生は、さよならだらけです。だからこそ、今、一緒にいられる人たちとお話できること、触れ合えることに幸せを感じ、この一瞬を大切に生きようという、前向きな気持ちをもって日々を過ごして欲しいと、先生は思っています。この、「さよならだけが人生だ」という言葉は、先生の「座右の銘」、先生が一番大切にしている言葉です。

卒業に向けての取組は、チャンスが一度しかありません。これからの日々、6年生は自分たちの卒業に向けて、全力で頑張ってください。自分たちの卒業の日を、最高の笑顔で迎えられよう、懸命に努力する姿を見せてくれるのを楽しみにしています。

そして、1年生から5年生のみなさんは、6年生の卒業を全力でお祝いしてください。行事のときだけでなく、毎日のお掃除などで学校をきれいに保つことなども、立派なお祝いだと思ってください。学校全体で、6年生の素晴らしい卒業のために頑張りましょう。

今日は「さよならだけが人生だ」という言葉と、6年生の卒業についてお話ししました。

【本講話について】

令和4年度の教育活動もいよいよ大詰めです。学校では、個々の子どもの1年間のゴールを見据え、意図的かつ計画的に学習や生活指導を行ってきました。しかし、教員としては、「もう少ししてあげられることがあったのではないか」「もっと成長させることができたのではないか」という思いをもつこともあります。学校で児童と関われる一瞬を、もっともっと大切にしていかなければと感じています。

今日は子どもたちに、私の「座右の銘」を紹介しました。もとは中国の詩人 于 武陵（う ぶりょう）による漢詩で、井伏鱒二が日本語に訳した最後の部分のみの紹介です。自分を励まし勇気付けるような、そして自分の生き方を変えるような、そんな言葉を子どもたちにもっていて欲しいと思っています。保護者の皆さまの座右の銘は何でしょうか？ぜひお家での話題にしてみてください。